

産前産後家事サポート報告

コロナ禍の家事・育児



母親の感染予防のための沐浴をサポート

佐世保市内

佐世保市内の住宅。同市のNP
O法人「ちいきのなかま」の家事
サポート、向笠さん(40)が、
6月末に生まれた伊賀ちゃんを
ベビーバスに寝かせた。母親の時
優さん(33)は別室で仮眠中。優は

里帰り出産を控えたり、遠方の家族の手助けを得られなかつ
たり新型コロナウイルスの感染拡大が女性のお産にも影響を及ぼす中、
民間などが提供する「家事・育児支援サービス」が注目されて
いる。県内では利用料の助成を始め自治体もあるが、認知
度不足や、家事や育児を他人に任せるとへの抵抗感が普及の
壁になっている。

妊産婦 民間支援に壁

10月5日付長崎新聞に家事サポート関連の記事が掲載されました。みなさんからは「新聞の一面って、長崎新聞の本気を感じた!」とか「トランプ大統領のコロナ感染の記事の上の位置ってすごい!」とか…のお声をいただき、確かに。

この記事のおかげで10月に入り家事サポートの問い合わせ、佐世保市育児等支援サービスの利用も増加しています。

「必要な人に情報を届けること」は意外に難しいことです。「必要な人」とは誰? 多分現状では多くの方が対象になると思っています。

10月14日NHKニュースで「産後うつ」の女性の増加が報じられました。コロナ禍と孤立化が要因かと思うところ。誰しもが不安な昨今、生まれたばかりの小さな命と毎日向き合う人たち

県内、助成も認知度不足

約1カ月利用し「胡さんは「相談もきいても励まされた」と笑顔。同法人の山崎理事は「コロナ禍の家事、育児支援の役割について、産後は孤立感を抱きやすいのに人と接することを控えないといけない。精神的に落ちるくらいは体の休息、回復は欠かせない」と強調する。

約1カ月利用し「胡さんは「相談もきいても励まされた」と笑顔。同法人の山崎理事は「コロナ禍の家事、育児支援の役割について、産後は孤立感を抱きやすいのに人と接することを控えないといけない。精神的に落ちるくらいは体の休息、回復は欠かせない」と強調する。

同法人は昨年、産前産後の女性の希望に応じて料理・掃除、赤ちゃんの沐浴などを代行する事業を本格化し開始。県内でも感染が拡大した5月以降、想定していた家族の支援が得られなくなった人の相談が増加。現在、今月出産を控え、地元への帰省を取りやめた妊婦など数件の依頼が入っている。

とになった。「産後と精神的に不安定にならないか」「コロナ禍で買い物に出掛けた感じがしないか」。家族の助けも得られず、不安だった時、かかりつけの産婦人科で同法人の家事サポートを紹介された。

取組む会社と連携する助産師の濱田さん(同市出身)は「妊産婦のさまざまな困り事を解決できる情報提供の場づくりを思っています。進める必要があると指摘。」「家事・育児支援の利用がないから」「2人目がほしい」と、本当に困っている人に必要な情報を届ける方法を考えるべきだ」と述べた。(取材・文責)

が「家事・育児支援サービス」を展開。コロナ禍で里帰り出産ができない妊産婦を対象に長崎市が8月、佐世保市は9月に同サービス入りの利用助成を始めだが、申請は長崎市がゼロ、佐世保市も数件にとどまる。利用が低調な要因について長崎市の担当者は、サービス自体があまり知られていない上、「お金を払い家事や育児を手伝ってもらうことになじみがない」とみる。

妊産婦側にも心理的抵抗がある。「ちいきのなかま」の支援を受け、5月に第2子を出産した佐世保市の30代女性は「家のおことをお願いするのはハードルが高い」と明かす。それでも利用したのは第1子の産後の経験があったからだ。女性は「夫婦で何とかならばいいと思っていたが体が動かしづらかった。産後の大変さをもっと理解する必要がある」と話す。

が「家事・育児支援サービス」を展開。コロナ禍で里帰り出産ができない妊産婦を対象に長崎市が8月、佐世保市は9月に同サービス入りの利用助成を始めだが、申請は長崎市がゼロ、佐世保市も数件にとどまる。利用が低調な要因について長崎市の担当者は、サービス自体があまり知られていない上、「お金を払い家事や育児を手伝ってもらうことになじみがない」とみる。

がいることに、もっと社会は関心を寄せるべきだと思うのです。

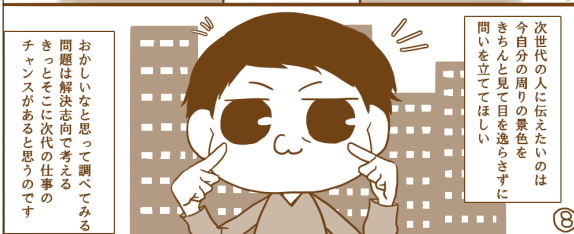
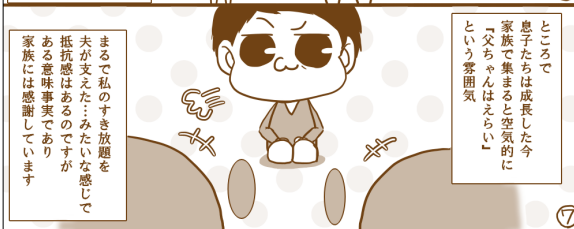
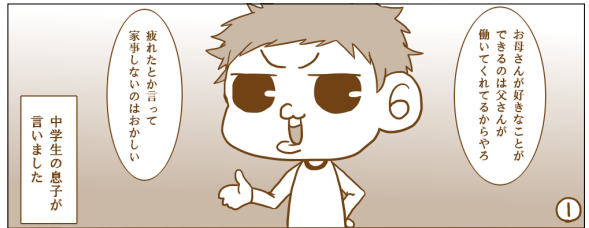
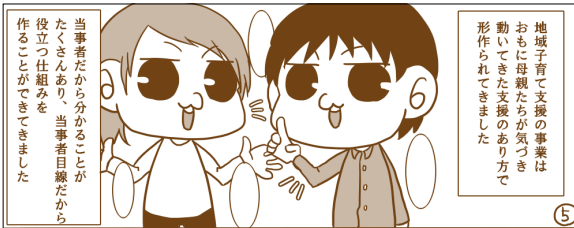
私たちたちが思う「支援が必要な人」とは、実家が近いとか遠いじゃなく、産前産後に支援してくれる「誰か」が近くにいない人です。

昨日、あるママからの相談。「私は事情があって実家とは疎遠です。2人目を望んでいます。誰かの支えがないと出産も子育ても難しい。2人目を産むのは無理かなと思います」ということ。今回の佐世保市育児等支援サービスの対象外の方なので、家事サポートを利用する時にはそれなりの経済的な負担をお願いしないといけません。でも、絶対に支援はできるからとお伝えしました。

いま「ちいきのなかま」が取り組む支援の必要性に確信をもつ日々です。

無償の仕事ってこ〜んなかんじ

by 蓮すけ



自慢できることじゃないけれど、息子が無断バイトで校則違反したときのこと。息子は10代後半、生きる意味が自分にあるのかと悩み考えていました。親としてまずは「働いてみたら」と思ったし息子もそう考えてバイトを開始、まずは働いて自分にできることがあるのか試すことを選択しました。結果この経験から息子は自分にもできることがあると実感しました。後日、そのバイトは学校に見つかり息子は処分を受けました。親子とも学校に呼ばれて教師と会話。親は息子が生きる意味が見えないといった件などを伝えて、自分で働くことで、生きる意味を見出したと伝えました。教師が「ならばバイトじゃなくボランティアをすればいい」と言いました。お金を稼ぐことが良くない…というような言いぶり。それについてボランティア活動は自分のためのものじゃないこと。誰かを支えることが本当に高校生にできるのか、逆に迷惑をかけることすらある。その行為の価値の有無を感じるとしたら自己満足にならないか。しかし、賃金労働は働きにたいして明確に対価が発生し自分の労働の価値が自覚できる。いただいたお金で自分が望むことも実現できるかも知れない、とてもわかりやすいですよ…ごく具体的に生きていっていいと思うんじゃないか…と伝えました。教師の意見は真逆で、話にならない…という空気。処罰対象のくせに…ですよね。

私はNPOやボランティア、ソーシャルビジネスは社会に新たな価値を創造することと考えてきたけれど、当然、社会の価値観は多様です。私には息子が3人いますが、3人ともこんな親と社会の狭間で苦労したと思います。申し訳ない。でも今でもあの教師のボランティア観は間違えていたと思っています。

産前産後のサポートとしてカウンセリングを開始

～みなさんからのご寄付の一部を財源とさせていただきます～

昨年度、ちいきのなかまでは家事サポート展開の時の利用者負担軽減を、目的として寄付金を集めさせていただきました。

想定外のことでしたが、この通信の1面でご紹介しましたように、佐世保市で育児等支援事業が始まり、当法人家事サポート部門に収益が上がる予定です。このことはとても嬉しいことです。同時に「寄付」の使途についても再考することにいたしました。私たちはみなさんのお気持ちのこもった寄付は利用者の方々に還元したく、今回、その一部で利用者さん向けカウンセリングを開始したいと思います。

カウンセリングは利用者の方のご希望によって生活支援のケアプランづくり、抱っこや子どもとのコミュニケーション、沐浴の方法や子どもの発達、復職までのスケジュールについてなど、助産師さんにも対応をお願いして幅広く対応していこうと思います。ご寄付いただいた皆さんにはその経過を後日ご報告させていただきます。

ファミサポ企画

～北部地域で開催の会員養成講座、よろしければご参加ください～

ファミリーサポートセンター佐世保
会員養成講座
～育児・介護職経験者向け～





ファミリーサポートセンター事業は、子どもの暮らしを支援する活動です。佐世保でも多くの人が利用されている子育て支援事業です。この中、外出困難な子育て家庭は子どもの育児支援は、子育ての負担軽減に、重要な役割を担っています。子育て支援と地域をつなぐ重要な事業です。みなさまの力をこの事業にも活かしていただければ、子育ての負担軽減は、佐世保北部地域での子育て支援活動に、ぜひご参加ください。

開催日 2020年11月14日(土) AM10:00～PM15:00
会場 佐世保市吉井地区公民館(吉井町立石473)
申込 ファミリーサポートセンター佐世保 まで
TEL 0956-42-1848



プログラム

- 9:40～10:00 オリエンテーション・ファミリーサポートセンター事業について(事務局)
- 10:00～11:30 **【講演】子ども・子育ての現状への理解を深める**
～私たちにできる地域での支援の可能性～
講師：柿田多佳子さん(長崎純心大学人文学部子ども教育保育学科 准教授)
- 11:30～15:00 ファミリーサポートセンター事業の現状・支援の方法・リスク・留意点など (アドバイザー)

※ 終了時に会員登録をお願いします
※ 活動を始められる時にはファミサポ事務局のバックアップいたします。

※ 申込・お問い合わせ先
佐世保市 子育て支援課
柿田多佳子さん アドバイザー



長崎純心大学(長崎県長崎市)准教授。長崎県に社会福祉士として、児童福祉司、児童相談所、福祉事務所、こども発達障害センター、2014年4月から佐世保にて「子育て支援センター」の運営に携わっています。2018年4月から「子育て支援センター」の運営に携わっています。2020年4月から長崎純心大学人文学部子ども教育保育学科准教授。得意な分野として、子育て支援(15歳未満児童相談所)業務に携わっていること、子育て支援センターの運営、研究を行っています。

はじめて出産される方へ
赤ちゃんとの暮らしのスタートを
一緒にプランニングします

子育てしている人が身近にいない
これまで赤ちゃんを抱っこしたことが無い
産後って想像つかない

産後を知る

産後の体の変化
産後の環境の変化
何を大切にしたらいい?
困ったときに頼れるところは?

赤ちゃんを知る

新生児ってどんな感じ?
お世話体験!
(抱っこ・おむつ替え・沐浴など)

私たちの赤ちゃんとの暮らしを考える

産後どんな風に過ごす?
誰に手伝ってもらおう?
大体どれくらい費用が必要?

時間：2時間 料金：1,000円
子育て支援に関わるスタッフがご自宅に訪問しておこないます!
是非ご夫婦でご参加ください(土日も訪問いたします)

ご予約・お問合せ



NPO法人ちいきのなかま 090-9498-3608

この講座は佐世保市の北部、旧合併地域でのファミサポの普及を目的に開催します。今回、講師の柿田多佳子さんのご協力で「児童福祉」を地域密着の視点から地域住民の関わりによどのような可能性があるのかをお伝えいただきます。地域子育て支援の中で虐待、マルトリートメントが見え隠れする現状があり、それがわかった段階で通報すれば済むのかといえば現実はそのようではない。そのご家族の日常は日々続きます。その家族を孤立させないように支援者はつかず離れず寄り添い続けていく必要がある。その時にどんなスタンスで向き合うのか、これが現場の新たな課題だと思えます。そして、状況を理解しつつ向き合う支援者にもケアが必要だと思っており、午後は支援者としてどう向き合うのかについてお伝えできればと思います。

●これからのイベントや講座の予定

イベント名	日時	会場	内容
ぼちぼちヨガ教室	10月26日（月） 14:00～15:00	ボランティア センター別館	定期開催 参加費¥500 会員外¥800
おもちゃ図書館	10月27日（火） 10:00頃から	ファミサポ事務所	参加費無料
ファミサポ提供会員 交流会	11月26日・28日・ 30日	ボランティアセン ター別館	要事前申込
ぼちぼちヨガ教室	11月9・30日 （月） 14:00～15:00	ボランティア センター別館	定期開催 参加費¥500 会員外¥800
北部地域ファミサポ 会員養成講座	11月14日（土） 10:00～15:00	吉井地区公民館	無料・受講後登録可
ファミサポ 会員養成講座	11月24～26日	ボランティアセン ター別館	2020年度第一回

編集後記

「このあたりのどんぐりはまだ青いけど〇〇公園のどんぐりはちょうどいい感じですよ」「△△公園は昼の間は暖かくて子どもにはいい感じですよ」ファミサポ提供会員さんの会話です。ご自身の暮らしの中でいつも子どもと子育て支援を考えてくださいます。

女性は子どもを産み育てることで2度子ども時代を経験する…その2度目の体験を通して人として成長されるので女性は優れている…と言います。子育ての支援者の多くの方は活動を通して3度目の子ども時代を経験されているように思います。そのなかでまた新たな気づきを得られ、人生を豊かにされているのだと感じています。そんなことを感じる良い秋の日。

NPO法人ちいきのなかま

入会・会員（正・賛助）会員継続のご案内

正会員：総会議決権あり 入会金¥1,000 年会費¥6,000

賛助会員：総会議決権なし 年会費¥3,000

主な特典：各種事業会員特別料金にてご優待

連絡先 NPO法人ちいきのなかま



〒857 0022長崎県佐世保市山手町9-19

携帯 090-9498-3608

E-mail:chiikinonakama@basil.ocn.ne.jp

HP:http://chiikinonakama.boj.jp/